

学校ホームページ用原稿

H28年度 佐賀県学習状況調査・全国学力学習状況調査の分析結果と今後の対応について

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）、佐賀県学習状況調査（5年国語・算数）の本校全体の結果をまとめました。

また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【全体の正答率について】

| | | |
|---------------|--------|------------|
| 5年国語科：全体の正答率は | 県の平均と | ほぼ同じです。 |
| 5年算数科：全体の正答率は | 県の平均と | ほぼ同じです。 |
| 6年国語科：全体の正答率は | 県の平均より | やや上回っています。 |
| 6年算数科：全体の正答率は | 県の平均と | ほぼ同じです。 |

【経年比較について】

同一学年での経年比較をしてみると、今年の5年生は、昨年の5年生と比べて、国語科、算数科において正答率がよくなっています。また、今年の6年生も、昨年の6年生と比べて、国語科、算数科において正答率がよくなっています。

同一児童での経年比較をしてみると、5年生の国語科、算数科においては、正答率はほぼ同じか若干の伸びが見られます。また、6年生の国語科、算数科においては、正答率の伸びが見られます。

以上のことから、子ども達が徐々に力を伸ばしていることがわかりました。

結果の個人票は、夏休み中の個人面談で配布しました。

本校では、夏期休業中に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。

2学期当初に、授業においてどのような手立てをとるか、家庭学習においてどのような取り組みをしていくかについては、その具体的な手立てについて、保護者の皆様にお知らせしております。現在は、具体的な手立てや方法を工夫することによって、日々授業の改善・充実に取り組んでいます。

保護者の皆様、本校の取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

～全国学力・学習状況調査，佐賀県学習状況調査の分析結果と今後の対応について～

| | 分析結果 | 今後の対応 |
|------------------|--|---|
| 5 年 国 語 | <ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。 ●「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、県平均を大きく下回っている。 ●「書くこと」は、県平均とほぼ同じである。 ●「言語事項」は 県平均を大きく上回っている。 <p>○条件を正しく理解して、それに合わせて文章を書くことができていない。</p> <p>○国語辞典の使い方が定着していない。</p> | <p>①国語科の授業における話し合い活動だけではなく、他教科・特別活動においても話し合い活動を取り入れる。自分の考えを表現する機会を多く設け、条件にあった答え方を身につけさせる。</p> <p>②原稿用紙に、短く自分の感想をまとめる活動を増やす。</p> <p>③国語科に限らず他教科でも、声に出して読む機会を増やす。</p> <p>④国語辞典を使う時は、出てくる順番を意識して調べる場面を増やす。</p> |
| 5 年 算 数 | <ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。 ●観点別では、「数学的な考え方」が、県平均をやや下回っている。内容領域別では、「量と測定」が、県平均をやや下回っている。 <p>○示された条件から必要な数値を取り出したり、注意深く問題文を読み取ったりできない。</p> <p>○情報を整理し、筋道を立てて考えることができない。</p> <p>○四捨五入・概数の理解が不十分である。</p> <p>○単位換算と面積についての概念の理解に課題がみられる。</p> <p>○結合・分配法則など計算のきまりを理解していない。</p> | <p>①問題文を短く切って読む、アンダーラインを引く、絵や図に表すなどの方法を用いたり、「つなげる」活動において図・式・言葉を活用したりできるようにする。</p> <p>②解決の必要性を感じるような場面から課題提示を行い、算数の楽しさやよさを実感させるようにする。</p> <p>③単位換算や計算のきまりを使った式の工夫などは、繰り返し取り組ませることで習熟を図る。</p> <p>④算数用語については、視覚的な支援を用いながら確実に概念を理解させ、定着するまで繰り返し練習させる。</p> |

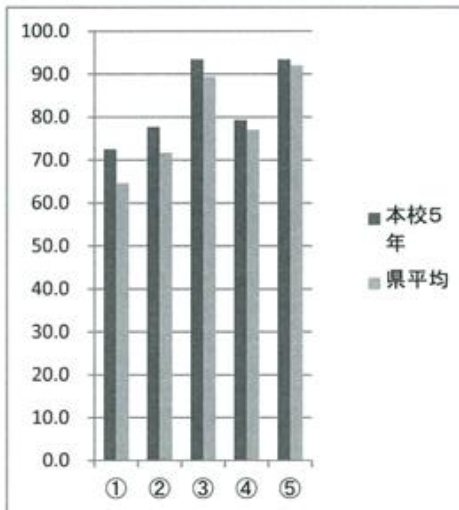
| | 分析結果 | 今後の対応 |
|------|---|--|
| 6年国語 | <ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は、県平均をやや上回っている。 ●「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、県平均を大きく上回っている。 ●「読むこと」「言語事項」は、県平均とほぼ同じである。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」の正答率が高い。 <p>○一つの条件に捉われて、全ての条件に合わせて解答することができていない問題もある。</p> <p>○前学年までの漢字を正確に書けない児童がいる。</p> <p>○ローマ字の読みでは、拗音を含む単語を読むことが難しい。書きでは、大文字と小文字を混在しており、確実に覚えることができていない。</p> | <p>①これまで同様、毎時間学習の後に振り返りを言わせたり、帰りの会の時間を利用してスピーチを言わせたり、継続して取り組んでいく。</p> <p>②問題の条件を明確にして解答する学習を取り入れる。</p> <p>③図書室の利用を促し、読書の推進に努める。</p> <p>④学習した漢字を積極的に使う場面を設定したり、前学年までの復習を適宜取り入れたりして、定着を図る。また、国語辞典や漢字辞典などを利用する習慣を身につけさせる。</p> <p>⑤ローマ字フラッシュなどを活用し、繰り返し学習を行う。</p> |
| 6年算数 | <ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。 ●観点別でも内容・領域別でも、県平均とほぼ同じである。 <p>○問題文の文章を読み取り、条件に合った考え方ができていない。</p> <p>○順序立てて考えることが苦手である。</p> <p>○問題文や式の数値と、図やグラフを関連づけて考えることが苦手である。</p> <p>○算数用語を活用する力がついていないため、数値や式の説明を記述することができていない。</p> <p>○小数の除法の計算の習熟が十分であるとはいえない。</p> <p>○図形の構成要素や直方体の面と面の位置関係を理解していない。</p> <p>○百分率において100%を超える割合についての理解が不十分である。</p> | <p>①問題文の意味を読み取り、数量関係をつかめるように、図や表にまとめさせる。</p> <p>②小数の除法の計算をドリル学習などで定着を図る。</p> <p>③授業で「つなげる」場面において、説明の仕方のモデルや算数用語を示すなどして、自分の言葉で説明する活動をできるだけ取り入れる。</p> <p>④パターンブロックを使った敷き詰め活動など算数的活動を取り入れ、学力の素地となる活動も積極的に行う。</p> <p>⑤学習内容を日常生活に転用できるように、身近な場面を問題に取り入れたり、学習した内容を身の回りの事象に当てはめたりする。</p> <p>⑥基本問題の数値や条件を少し変えた発展問題を取り扱う。</p> |

～生活習慣に関する意識調査について～

平成28年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

| | 調査の項目 |
|---|---|
| ① | 新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりする。 |
| ② | 理科の授業で、自分で考えたことを図や言葉で表したり、友達と話し合っている。 |
| ③ | 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。 |
| ④ | 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。 |
| ⑤ | 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。 |



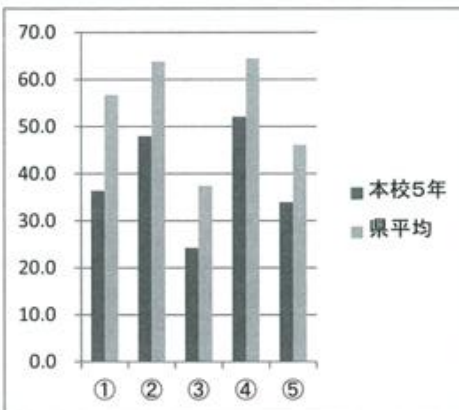
【分析と取組】

○校内研を受けて、算数の授業研究やICT利活用に取り組んできた。その結果、どの教科においても興味関心が高まり、意欲をもって学習に取り組んでいる姿が見られるようになった。また、授業の中に、3つのわかる化(構造化・焦点化・視覚化)を効率的に仕組むことにより、学習内容の理解につながっていると考えられる。

○昨年、家庭学習の手引きを見直し、学年で宿題の出し方を統一したことで、家庭学習に対する意識が高まっている。

【数値が特に低かった項目】

| | 調査の項目 |
|---|--|
| ① | 学校の授業の復習をしている。 |
| ② | 自分で計画を立てて勉強をしている。 |
| ③ | 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行く。 |
| ④ | 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。 |
| ⑤ | 学校の授業の予習をしている。 |



【分析と取組】

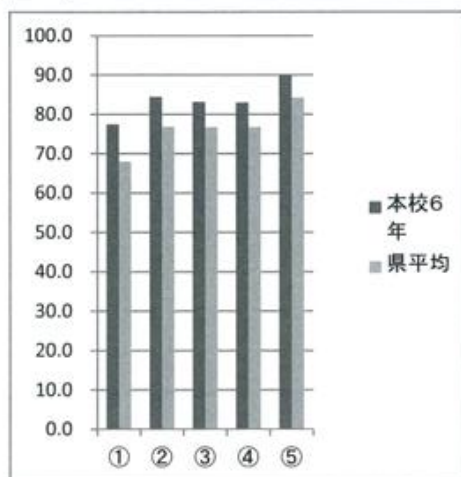
○自分で課題を見つけて取り組むような、宿題+αの学習に取り組めていない児童が多い。そのため、自分で考えて取り組むことができる課題や、予習・復習的課題等を教師が意図的に考えて取り組ませている。

○図書室に行くことに関心を持っていない児童が多い。担任の声かけを増やし、図書室を利用して読書の習慣を身につけさせる。

平成28年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【6年】

【数値が特に高かった項目】

| 調査の項目 | |
|-------|----------------------------------|
| ① | 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。 |
| ② | 「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。 |
| ③ | 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。 |
| ④ | 家の手伝いをしていますか。 |
| ⑤ | 家の人と学校での出来事について話をしますか。 |



【分析と取組】

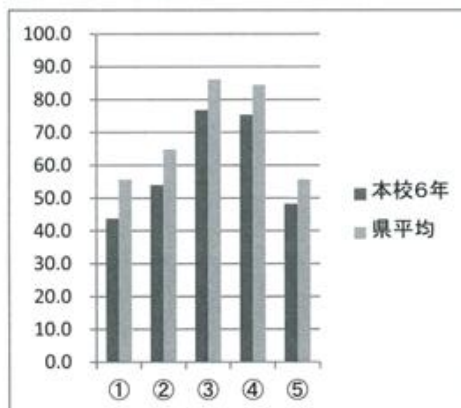
○算数科の授業において、学習課題が生活に基づいたものになっている。継続して、課題の提示の仕方や発展問題などで、身の回りのものを教材化していくことに取り組んでいく。

○学習活動の中で、子どもの思いや考えを大切に受け止め、繰り返し成功体験を味わわせることで、さらに自信をつけさせていきたい。

○家庭が児童の頑張りを褒め、励ます環境にあることがうかがえる。今後とも児童の頑張りをおたよりや懇談などを通して紹介し、認め合う雰囲気を広げていくことが大切である。

【数値が特に低かった項目】

| 調査の項目 | |
|-------|---|
| ① | 調査問題の解答時間は十分でしたか。算数B40分(テストの時間) |
| ② | 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 |
| ③ | 先生は、授業やテストで間違えた所や理解していないところについて分かるまで教えてくれる。 |
| ④ | 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかったことがある。 |
| ⑤ | 国語の勉強は好きだ。 |



【分析と取組】

○算数の活用問題に取り組むのに時間がかかる。文章問題の内容を整理できるように、内容を図に表したり、キーワードに着目して読んだりするなどの工夫を指導していく必要がある。

○他学年との交流活動や一つの目的に向かって全員で取り組む活動の場を増やしていく。

○授業の様子やテスト等から、児童への補習内容を考え、指導していくことを継続していく。また、児童自ら先生に質問する姿勢を高めていく必要がある。

○国語の学習において、説明、報告、紹介、討論等の言語活動を取り入れながら、授業の工夫を図っていく。